

第5回衛星放送協会オリジナル番組アワード

125番組の応募のなかから、計8部門の最優秀賞が決定 大賞は『TMSアニメ50年のDNA』（アニマックス）に

一般社団法人衛星放送協会（東京都港区 会長：和崎 信哉）は、本日7月22日（水）に千代田放送会館にて「第5回衛星放送協会オリジナル番組アワード」の授賞式を開催しました。

有料・多チャンネル放送の社会的な役割は、こだわりを持った多様なエンターテインメント番組を通して、視聴者の皆様に放送をより楽しんでいただくことです。「衛星放送協会オリジナル番組アワード」は、多チャンネル放送のオリジナル番組制作促進、その認知度向上を目的として2011年に創設しました。今回も会員社からオリジナル番組賞102番組、編成企画賞23企画の計125と多数の応募をいただきました。本日の授賞式では、オリジナル番組賞7部門の最優秀賞、編成企画賞の最優秀賞と奨励賞を発表。さらに今回は、本アワード初の試みとしてオリジナル番組賞の最優秀作品のなかから大賞を発表しました。栄えある大賞に輝いたのは『TMSアニメ50年のDNA』（アニマックス）です。

今後も、本アワードを通じ、会員各社が制作し放送するコンテンツに一層磨きをかけるとともに、各放送局のこだわりを持ったオリジナル番組や大胆な編成企画をより多くの方々を知っていただける活動を継続してまいります。

<審査概要>

応募作品は、2014年4月1日（火）から2015年3月31日（火）までの間に、一般社団法人衛星放送協会会員社において初めて放送されたもの。会員社から公募された審査委員による第1次審査を行い、オリジナル番組賞7部門計28番組と編成企画賞12企画の、計8部門40作品のノミネート作品を選出。最終審査にて、オリジナル番組賞7部門の最優秀賞、編成企画賞の最優秀賞と奨励賞、オリジナル番組賞の最優秀作品のなかから大賞を選出。

<最終審査委員>

■審査委員長:	吉岡 忍（ノンフィクション作家）	
■オリジナル番組賞:	石井 彰（放送作家）	音 好宏（上智大学文学部新聞学科教授）
	鴨下 信一（演出家）	小宮山 悟（野球評論家）
	田中 早苗（弁護士）	吉田 祐也（読売新聞東京本社編集局文化部）
■オリジナル編成企画賞:	安西 浩樹（株式会社アイキャスト）	尾前 勝（株式会社ジュピターテレコム）
	喜多 克尚（朝日新聞社 編集局 文化くらし報道部）	宮崎 美紀子（東京中日スポーツ 報道部）
	和光 みき（スカパーJSAT株式会社）	

<特別協賛>

スカパーJSAT株式会社、株式会社ジュピターテレコム

<協賛>

株式会社KADOKAWA、株式会社アサツー ディ・ケイ

大賞

TMSアニメ50年のDNA

アニマックス（株式会社アニマックスブロードキャスト・ジャパン）



<講評>吉岡 忍 審査委員長

オリジナル番組アワードも、5回目を迎えた。衛星放送の普及定着にともない、各チャンネルはその特性に合わせたオリジナル番組の制作を本格化させ、その質も年ごとに上がっている。私たち審査委員会は、こうした全体的動向をさらに加速させ、地上波テレビと並び立つもうひとつの放送軸としての地位を不動のものとするために、従来の部門ごとの最優秀作品のなかから、さらに大賞を選定することにした。これはいわば、この1年間の衛星放送の（顔）である。その第1回目の受賞作が、本作である。アニメが、現代日本の文化・表現の大きな位置を占めていることは言うまでもない。だが、映画やテレビと二人三脚で自己を形成してきたここ半世紀の舞台裏でどんな苦心と工夫があったのか、何が飛躍のきっかけとなったのか等々については、知られているようでいて、意外と知られていない。もしそこを深く探ろうとすれば、アニメに造詣の深い制作者が、関係者を訪ね歩き、たくさんの作品を見、その細部に目を凝らさなくては中途半端なものになる。まさに、ここそ専門チャンネルの出番といわなければならない。受賞作は、何編かの幻の名作の放送を交えた26時間の特別編成中に差し挟まれたエピソード集であるが、その1編1編が日本アニメの歴史を語り、作者の時代の気分をよみがえらせ、技法を解き明かして、見応えがある。私たちの網膜を通り過ぎていったアニメの意味に気づかされ、あらためてその奥深さを思い知らされる。まさに衛星放送ならではの、The Best of the Bests として、顕彰する。

「第5回衛星放送協会オリジナル番組アワード」オリジナル番組賞 最優秀賞

ドラマ番組部門

闇の狩人(前後篇)

前篇:BSスカパー！/後篇:時代劇専門チャンネル（日本映画放送株式会社）

2010年より時代劇専門チャンネルはスカパー！の協力を得てオリジナル時代劇を制作。2014年新たに取り組んだ本作は、スカパー！、松竹との共同制作という形で、池波正太郎の傑作長編を原作に、初の二部構成(前篇・後篇)で制作。前篇はBSスカパー！、後篇は時代劇専門チャンネルにて放送。

<講評>吉田 祐也 審査委員

最優秀賞に選ばれた「闇の狩人」には、時代劇復権への期待も込められている。池波正太郎原作の中では、映像化で「魅せる」ことは難しいと思われた本作。主演の中村梅雀、脇を固めた風吹ジュンや石橋蓮司の演技が光った。記憶をなくした浪人役の福士誠治は新鮮な発見だった。目で演技をしているし、日本人らしい所作も味わい深い。2015年に入ると、地上波で単発の時代劇が放送され、衛星放送でもオリジナル時代劇の制作・放送が相次ぐなど、復活が目に見える形になっている。「古き」を知ることで、ドラマにどんな新しい風が吹くのか。期待する1年になりそうだ。



©2014 時代劇専門チャンネル/
スカパー！/松竹

ドキュメンタリー番組部門

ノンフィクションW 萩本欽一 73歳 覚悟の舞台へ ～「THE LAST ほめんな ほれんな とめんな」完全密着～

WOWOWプライム（株式会社WOWOW）

テレビで一時代を築いたコメディアンが、時代とともに「笑い」の場を舞台に移し、その舞台からも姿を消そうとしています。その貴重な公演を収録・放送し、合わせてドキュメンタリーとしても取材を行うことで、萩本さんのコメディアンとしての覚悟を描きたいと思いました。

<講評>吉岡 忍 審査委員長

戦後日本のテレビと舞台のコメディ界を長年にわたって牽引してきた萩本欽一。相方の坂上二郎亡きあと活躍してきた彼も、はや73歳。体力的に厳しい、と舞台公演をやめる決意を固めるときがきた。その最後の舞台に密着し、素顔をとらえようとした意欲作である。一般に、よく知られた人物のドキュメンタリーは表情や言葉に意外性が少なく、平板になりやすいものだが、萩本の人柄なのか、いい現場と瞬間を選んでいるせいなのか、素の表情がみごとに描かれている。幕が上がるぎりぎりまで台本をいじり、変えてしまうという緊迫感。体の向きひとつで舞台イメージを変えてしまうカンよき。舞台裏で苦しいに酸素吸入をし、笑いながら舞台に飛びだしていく健気さ。そういうシーンのひとつひとつがコメディアンとしての萩本欽一のひたむきさを浮き彫りにすると同時に、制作者の人を見る目の確かさを感じさせる。



中継番組部門

ブラインドサッカー世界選手権 2014

BSスカパー！（スカパーJSAT株式会社）

スカパー！はこれまで障がい者スポーツ中継に力を注いできました。今回、日本初開催となった「ブラインドサッカー世界選手権」は視覚障がい者選手による5人制サッカーの頂点を決める大会です。2016リオに向け、日本代表チームの試金石となるこの大会の模様を、日本戦中心に生中継で制作しました。

<講評>小宮山 悟 審査委員

世間にあまり認知されていない『ブラインドサッカー』という競技の世界大会が、アジアで初めて日本で行われ、開催国である日本代表の開幕戦を臨場感溢れる生中継、さらには、歴史的勝利の瞬間を中継することが出来、非常に良い中継だったと思います。強豪・パラグアイ相手に挙げた歴史的勝利は、何ものにも代え難い感動的なものとなったと思います。中継をさらに良くする為に改善の余地は残されていると、審査員一同さらなる飛躍を期待しております。是非とも、『ブラインドサッカー』が、世間に認知され、2020年東京オリンピック・パラリンピックで、多くの人々に応援してもらえるようになる事を祈っております。おめでとうございます。



日本ブラインドサッカー協会提供

バラエティ番組部門

みんなの県民SONG！～兵庫うた旅情編～

歌謡ポップスチャンネル（株式会社IMAGICA TV）

歌は世につれ、世は歌につれ」という諺があるように、歌は時代を映しだし、世の中もまた歌と共に移り変わっていく…。日本各地に根付き、愛されている歌を「県民SONG」と称し、旅を通じて紹介していく、今までになかった「音楽」×「旅」番組を企画しました。

<講評>鴨下 信一 審査委員

ドラマや音楽が美術館なら、バラエティは博物館の様なもの。壊れたものの破片とか石ころ、木切れや衣類の切れ端、そんな雑然とした、一見ささやかな物たちが集められています。ところがそれらが集まって整理されると、人間の営みの貴重な全貌が急に浮き出して、輝いて見えてくる。それが博物館です。土地の食べ物、親切な人々、そうした普遍の人々が口ずさむ唄、特産品や普段使いの小物、普段着、そうした見逃してしまいがちな物を丹念に拾い集めた制作者の努力に敬意を表します。あんなにバクバク食べる美川憲一さんの人間性を見られただけでも、この番組は素晴らしい番組です。



歌謡ポップスチャンネル

「第5回衛星放送協会オリジナル番組アワード」 オリジナル番組賞 最優秀賞

情報番組・教養番組部門

ドキュメンタリー ～The REAL～

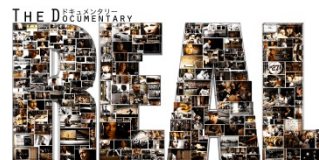
投手生命を救え！ トミー・ジョン手術から40年～日米最新事情～

J SPORTS 3 (株式会社ジェイ・スポーツ)

2014年ニューヨーク・ヤンキースへ移籍した田中将大投手が、シーズン中盤にヒジを痛め「トミー・ジョン手術」を受けるという噂で世間を騒がせ、ダルビッシュ有が一石を投じた「投手に対する環境」。その「投手の抱える問題」を日本そしてアメリカにおける取材を通じて浮き彫りする。

<講評> 田中 早苗 審査委員

1974年。ひじを痛め、はじめてじん帯手術を受けたメジャーリーグ投手のトミー・ジョン氏。それ以降、多くのメジャーリーグの投手がいわゆるトミー・ジョン手術を受けている。番組は、日本、そしてアメリカの選手や医師らを幅広く取材をし、なぜ、ひじを痛めるのか様々な角度から分析する。そして、メジャーに注目してもらうために、子供たちやその親も投球速度にこだわるようになり、怪我をしがちになるのだと…。ひじの『使いすぎ』は子供たちにとって、犯罪に近い行為だという専門家の証言は重い。まさに、スポーツチャンネルならではの問題提起である。番組は、選手、指導者さらには保護者へ向けた警鐘を鳴らした。そして、現在の野球界に対する強烈な批判を真正面からスポーツチャンネルが行った意義は、高い。



©J SPORTS

アニメ番組部門

TMSアニメ50年のDNA

大賞

アニマックス (株式会社アニマックスブロードキャスト・ジャパン)

トムス・エンタテインメント アニメ制作50周年を記念して制作した26時間特別番組。トムス設立当時の貴重な資料からインタビューを交えトムスの原点アニメ「ビッグX」の制作から50年にわたって脈々と受け継がれるDNAをさまざまな視点から紐解きながら構成した特番を企画制作。

<講評> 石井 彰 審査委員

世界に誇る日本のアニメ制作を牽引してきた「トムス・エンタテインメント」のアニメ制作50周年を記念して、放送された26時間の特別番組。その中のスタジオトークやインタビュー部分をダイジェストで50分に編集したもの。日本アニメのさまざまな技術的進化や舞台裏の苦勞を描いた、歴史としての貴重な記録である。人形劇から人情劇へ、美形敵役の創出、ストップモーションやハーモニー処理、そして斜光効果など、当事者によって語られるエピソードは、日本アニメの根幹に迫る見事な番組だった。高畑勲のきめ細かな作画、大野雄二のジャズ音楽による劇伴、名監督鈴木清順の脚本参加など、トムスアニメ＝日本アニメの真髄を形作った人々を顕彰する、素晴らしい番組として高く評価する。



ミニ番組・番組PR部門

英国名画のロケ地を訪ねて

イマジカBS・映画 (株式会社IMAGICA TV)

イマジカBSでは、2014年8月から「総力特集 英国大特集～ハリウッドに飽きた日本人よ。イギリス映画を観よ！～」と題して、私たちに刺激を与えてくれる魅力的なイギリス映画を100本放送致しました。その中で厳選した映画12本のロケ地を巡る旅を視聴者の皆さんに御提案致しました。

<講評> 音 好宏 審査委員

「英国名画のロケ地を訪ねて」は、ヨーロッパ映画に強い映画専門チャンネル「イマジカBS」のチャンネル・コンセプトを、丁寧に具現化したオリジナル・ミニ番組だ。英国名画のロケ地を巡る映像の旅は、英国映画ファンでなくとも、心を癒し、楽しませてくれる。その第1回を「シャーロックホームズの冒険」から始めるというのもニクい。番組の随所に、作り手の心配りがなされており、女優・常盤貴子さんのしっかりとした味わいのあるナレーションや、所々に挿入される名車・MINIの存在は、英国らしい風景の映像化に一役買っていた。これぞ、ザ・ミニ番組と言えよう。



「第5回衛星放送協会オリジナル番組アワード」オリジナル編成企画賞

最優秀賞

ドラマ甲子園

フジテレビTWO（株式会社フジテレビジョン）

高校時代は一番感受性が高く、クリエイティブ能力が花開く時期。そんな貴重な時期に可能性をかける事が出来る場所を提供したい。そこから第1回「ドラマ甲子園」を開催。“高校生のみ対象”に脚本募集を行い、書いた本人がプロのスタッフのサポートのもと監督をする。クリエイター発掘プロジェクトです！

<講評>喜多 克尚 審査委員

テレビ局としての底力を感じさせられる大型企画。高校生に脚本を書かせるだけでなく、ドラマの演出まで委ねてしまおうという思い切りの良さに、まず驚いた。大賞受賞作も企画の趣旨にかなう瑞々しい作品で、長期的な展望に立つ企画として幸福なスタートを切れたと思う。高校生を主体にしたスポーツや音楽のイベントは野球の甲子園大会を筆頭に数多くあり、有効な人材発掘システムともなってきた。他方、人文系では、全国高校総合文化祭などが注目されているが、新しい才能を発見しようという試みはまだまだ少ない。受験勉強との両立など高校生ならではの難しさもあるだろうが、未来志向型のこの企画が息長く続くことで、放送界はもちろん小説や舞台の分野にも、すぐれた人材が輩出することを期待したい。



奨励賞

スペースシャワーTV開局25周年特別番組 “25時間テレビ”

スペースシャワーTV（株式会社スペースシャワーネットワーク）

スペースシャワーTVが開局25周年を迎える2014年12月1日前夜に放送された「25時間テレビ」。「俺たちは、スペシャルか？」のローガンを掲げ、生放送・ドキュメント・楽曲制作・イベントなど多岐にわたって攻めの姿勢を示した超大型プロジェクト。無料放送・無料配信も実施した。

<講評>宮崎 美紀子 審査委員

まず25時間もの生放送に挑戦したことを評価したい。ライブあり、トークあり、懐かしい番組の復活ありの同番組は25年積み上げてきたものの集大成であり、一見ばかばかしいドラママラソンは番組を一つにつなぐ縦糸の役割を果たし、不思議な感動を呼んだ。内容の面白さもさることながら、この番組は専門チャンネルの原点を見せてくれた。アーティストはこのチャンネルを経て世に出て行き、音楽好きの視聴者は地上波では拾いきれない音楽に出会い、この両者の支えでチャンネルは存在している。同じ価値観で結ばれた3者の幸福な共存関係が番組のそこかしこから伝わってきた。スペースシャワーの誕生は多チャンネル化をもたらしたCSデジタル放送の開始よりも前。日本の専門チャンネルの先駆けである。25歳、おめでとう。



「第5回衛星放送協会オリジナル番組アワード」特別賞

テニス中継

株式会社GAORA
株式会社WOWOW



Photo/Getty Images

写真:ロイター/アフロ

<講評>吉岡 忍 審査委員長

昨年来、錦織圭選手の活躍により、テニス中継放送の視聴ニーズは飛躍的に高まった。しかし、テニス国際大会の中継は、番組編成がきわめてむずかしいスポーツ・コンテンツである。ゲーム進行によって試合時間に極端な長短があり、放送時間枠から大きくみ出したり、大きく余ったりもする。屋外コートでは天候にも左右され、長時間の中断を余儀なくされることも少なくない。これらに応じて大会日程も大幅に変更される。(株)GAORA、(株)WOWOWの両社は、長年にわたってテニス中継に取り組み、こうしたさまざまな事情から刻々と変わるスケジュールに柔軟に対応し、放送を続けてきた。両社はその経験と蓄積をふまえ、錦織選手が活躍した全米オープンテニス、ATPテニスワールドツアーファイナルズなどを放送してきたものである。これらの放送は錦織選手の人気を高め、テニスの醍醐味を伝えるとともに、有料・多チャンネル放送の存在をあらためて広く世に知らせ、多くの視聴者に深い感動を与えるものとなった。今回、両社の長年にわたるテニス中継放送の取り組みに対し、また有料・多チャンネル放送業界への貢献に対して敬意を表し、特別賞を授け表彰する。

「第5回衛星放送協会オリジナル番組アワード」特設HP <http://www.eiseihoso.org/award/2015/>

■本件に関するお問い合わせ

株式会社ユース・プランニングセンター

電話: 03-3406-3411 FAX: 03-3499-0958

三岩 (d-miiwa@ypcpr.com/090-7900-7481)

館林 (k-tatebayashi@ypcpr.com/080-8422-0967)

■その他のお問い合わせ

一般社団法人衛星放送協会

電話: 03-6441-0550

坂口 (sakaguchi@eiseihoso.org)